

# 研究所だより

第358号  
2016年 2月29日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“春は名のみ 風の寒さや 谷のうぐいす 歌は思えど  
時にあらずと 声もたてず 時にあらずと 声もたてず”  
「早春賦」 歌曲(2007年日本の歌百選)

「1月は行く(いく)、2月は逃げる(にげる)、3月は去る(さる)」と言われますが、早いものでもう3月、花の便りも聞かれるようになってきました。



## ☆第3回学力向上検討委員会(委員長：文野校長・下川口小)

5日(金)に第3回学力向上検討委員会が開催されました。高知県学力・学習状況調査の自校採点を基に正答率についてと平成28年度全国学力・学習状況調査に向けての課題や学力向上に向けての取り組みについて、協議・意見交換をしました。

### 【課題】

- ・「読み取る力」「書く力」「表現力」など未だに定着してない状況である。
- ・過去問題と類似の問題が解けていない。(算数、外国語)
- ・記述式問題に課題がある。(算数)
- ・表やグラフを基に結果を分析・解釈に弱さがある。(理科)
- ・無回答(最後の問題まで解けていない)→スピードも大事

### 【取り組み】

- 昨年度のつまずきが改善されていない。
  - ・正答率の低い問題や類似問題の誤答を分析し、焦点化する。
  - ・授業の中でつまずきに対する指導をする。
  - ・つまずきについて定着状況を確認、継続指導を行う。
- 経年比較一本市と西部管内との差は縮まっていない。  
経年比較を基に、課題を分析し、毎回課題となっている領域について、授業でどう取り組み、成果が上がったのか。また、何が十分に組み立てていないのかを全校研で分析し、日々の授業に生かしていく。
- 家庭学習について
  - ・授業と家庭学習(宿題)→授業とリンクした内容を全校研で確認、取り組む。



※実践例の紹介：足摺岬小「各種学力調査に向けた取り組み(ロードマップ)」

### 1. テストそのものに関する対策

縦軸を月、横軸を学力調査A問題(算国)、学力調査B問題(算国)、高知県思考力問題集等(理)の項目に分け、月毎に取り組み等を記載し、その取り組みについて全校研で振り返り、進捗や定着状況を共有。

### 2. 授業改善に向けて(各教科の課題克服の取り組み)

- 「国語も算数も限られた条件下で意見なり、考え方の表明を必要十分な論拠を示しながら説明する。書くにも課題がある。」  
→児童がそのような条件や制約を一つ一つ乗り越えていけるような授業や学習指導の展開
- 学習経験(まとめたり整理したりしながら、「書く」「話す」)の蓄積  
※ロードマップは、月別の一覧表になっています。

## ☆家庭学習ノートについて(その2)

～全国学力・学習状況調査連続日本一の秘密～「秋田県式家庭学習ノート」とは?

### 2. 家庭学習ノート取り組みのポイント

#### ☆毎日の基本

- ・日付と始めた時間、終わった時間を書きましょう。
- ・これから勉強するめあてを書きます。
  - (低)「漢字の練習」「足し算の練習」など
  - (中)「言葉の意味調べ」「テスト問題の復習」など自分が何に取り組むのか意識させましょう。
  - (高)教科書の作品名や単元のタイトルなど、できるだけ具体的に目的を認識できるように記します。

#### ☆内容

##### 【国語】

(低学年)◇教科書の書き写し/漢字練習/カタカナ練習/本を読んだ感想/日記・作文など

- ・マス目の中に文字をていねいに書くように心がけましょう。
- ・文字の読み書きの練習や文章を組み立てて書く基礎練習を繰り返しましょう。
- ・「何が、どうした」形式の主語と述語を組み合わせた短文づくりにも取り組んでみましょう。

(中学年)◇教科書の書き写し/漢字練習/言葉練習/本を読んだ感想/日記・作文など

- ・学年に応じたノートを使い、きれいに文字を書くように心がけましょう。
- ・漢字練習のほかにも、辞書を使って言葉の意味を調べて書き写しましょう。
- ・日記を書く際には、気づいたこと、頑張ったこと、自分が思ったことなども付け加えて書くようにしましょう。

(高学年)◇教科書の書き写し/漢字練習/言葉練習/本を読んだ感想/日記・作文など

- ・誰が見てもわかるように、ていねいに書きましょう。
- ・漢字練習のほかにも、辞書を使って言葉の意味を調べて書き写しましょう。
- ・新聞やニュースなどで気になった事柄についての自分なりの感想や意見を文章にしてみましょう。

##### 【算数】

(低学年)◇計算練習/算数の問題づくりなど

- ・数字をていねいに読みとりやすく書くように心がけましょう。
- ・絵や文章を組み合わせて問題を自分でつくってみると、算数に対する理解を深められます。

(中学年)◇計算練習/算数の問題づくりなど

- ・計算問題に取り組む際は、速さと正確さを両立できるように心がけましょう。
- ・絵や文章を組み合わせて問題を自分でつくり、算数への理解を深めましょう。同じ数字を使って、問題を何通りかつくってみましょう。

(高学年)◇教計算練習/算数の問題づくりなど

- ・計算問題に取り組む際は、速さと正確さを両立できるように心がけ、制限時間を設けて取り組みましょう。
- ・絵や文章を組み合わせて問題を自分でつくり、算数への理解を深めましょう。同じ材料をもとに、何通りか問題をつくってみましょう。

##### 【その他】

(低学年)◇身近な虫の名前を書く/草や花の絵を描く・種を調べてみる/歌の歌詞を書く

- ・国語や算数以外にも学習のメニューを広げ、学ぶことの楽しさに触れてみましょう。
- ・好きなことについて調べてみるのも学習の喜びにつながります。数字をていねいに読みとりやすく書くように心がけましょう。・絵や文章を組み合わせて問題を自分でつくってみると、算数に対する理解を深められます。

#### (中学年)◇調べ学習

- ・理科や社会の授業で習ったことを、自分なりに調べてみましょう。
- ・自分が興味のあることについて、図書館などで資料を見つけてまとめましょう。

#### (高学年)◇調べ学習

- ・理科や社会の授業で習ったことを、自分なりに調べてみましょう。
- ・資料を活用し、グラフや表にまとめるなどの工夫をしましょう。

#### ☆終わったら(保護者)

- (低学年) ・ノートをチェックして、コメントを記しましょう。良い点を見つけて、ほめることが大切です。
- ・間違いやそまつに行ったところは、もう一度取り直させましょう。
- (中学年) ・ノートをチェックして、コメントを記しましょう。頑張っている点を見つけて、ほめましょう。
- ・自分で丸つけをさせましょう。間違いがあったら必ず直す習慣をつけるように指導しましょう。
- (高学年) ・ノートをチェックして、コメントを記しましょう。工夫や新たな取り組みについては、やる気と試行力をほめましょう。
- ・自分で丸つけをして、間違いはやり直すことを徹底させましょう。

### 3. 親のかかわり方について

～習慣化の第一歩は親の意識から～

児童の親の意見は、「家庭学習ノートは、小学一年生からありました。まず学校から帰ってきたら、今日の様子について会話し、最後に『宿題は?』と問いかけるようにしていました。」

入学当初の子どもは、基本的にはひらがなも使えないわけですから、勉強に対して白紙の状態です。生来の勉強好きという子ども以外は、勉強が楽しいのかそうでないかもよくわかっていないのが普通です。ですから、宿題があったらやる、家に帰ったら毎日勉強する、という習慣もつけやすい。習慣化させるために何をしなければならないかという、『やるのが当たり前だよ』という意識を持たせることなんです。そのためには、親の働きかけが必要です。学校で教師が『宿題をやってきましたよね』と言うだけでは、難しい。そこで親がまず、今日の出来事を振り返るように話しかけることで、子ども自身も1日の行動をおさらいできるわけです。もしも、親に『勉強なんかしなくていいよ』『宿題忘れても困らない』という意識があるとそういう働きかけもできませんし、子どもも『やらなくても、まあ、いっか』となってしまいます。習慣化に大切なのは、親の意識です。

### 4. 家庭学習ノートの効果と取り組み方

#### (1)勉強嫌いにさせない

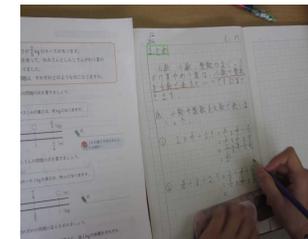
「へえ、言われなくても自分から勉強してるんだ。偉いんだね」と声をかけてあげるのが効果的です。「勉強しなさい」と命令するか、「どうして言われなくちゃやらないの」としかってしまうパターンが多いかもしれませんが、実はこれが、「勉強=嫌いなもの」というイメージを固定させる引き金になっているのです。「勉強=嫌いなもの」というマイナスの思い込みを消してあげるのが得策のようです。

#### (2)環境づくりでその気にさせる

子どもが勉強したくなる環境設定が必要です。そのためには、できるだけ雑音を省くのがポイントです。秋田県でもっとも多かったのが、居間のテーブルでした。「家族がそばにいと落ち着く」「自分の部屋でひとりで勉強するよりも集中できる」「わからないところがあると、お母さんにすぐ聞けるのがいい」という意見が多く、家族と共通の空間で時間を過ごすことが子どもに安心感を与えるようです。

秋田県三種町の小・中学校が配布している『家庭学習の充実のために』というプリントには、「学習習慣づくりのポイント」として

- ①決まった時間になったら机に向かう
- ②机の上には学習用具だけを置く
- ③「ながら勉強」をしない
- ④文字をていねいに正しく書く
- ⑤復習を大事にする
- ⑥本に親しみ、感性と知的好奇心をはぐくむ



また、「子どもが伸び伸びと学習に取り組むためには、家庭が心配や不安のない居場所であることがいちばんです」という呼びかけもなされています。学習習慣は、子どもの意欲だけでなく、周囲のサポートを得ながら定着していきます。「勉強しろ!」と言うよりも、部屋を片づけるなど、大人が先に行動で示すほうが子どもをその気にさせるはずですよ。

#### (3)嫌いにしない学習時間とタイミング

「小学生の家庭学習の時間の目安としては、学年×10分というのが一般的です」ライフスタイルが多様化しているなかで、毎日決まった時間を確保するのは難しいかもしれませんが、小学生(できれば低学年)の間に学年×10分の習慣をしっかり定着させることが、学力アップの基礎体力を養います。

#### (4)自信を持たせる

成長過程の子どもには、可能性がたくさんつまっています。成功と失敗をくり返して、子どもは成長していきます。何かを始める前から、“どうせ無理”と決めつけてしまうのは、とても残念なことです。「とにかくやってみよう」という子どものチャレンジ精神をはぐくむのも大人の役割です。「特に低学年のうちは、単純に毎日の練習量の違いによって成長に差が生じてきます」毎日の積み重ねが好結果を生み出し、好結果の手応えが自信につながって、次の課題へとチャレンジする意欲を養います。

#### 《寄贈図書を紹介》

「小学校算数 アクティブ・ラーニングを目指した授業展開」東洋館出版社  
笠井 健一編著(文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)  
～こんな「授業」がしたかった!子供たちの主体的・協働的な姿が「学びの質」を高める～  
全国の先進的な8つの実践例の一つとして足摺岬小の実践が紹介されています。  
実践例8:複式の手法を取り入れる授業  
事例1 わり算を考えよう(第3学年)/四角形を調べよう(第4学年)  
事例2 数カードや具体物で説明しよう(第2学年)

足摺岬小学校 門田校長から寄贈して頂きました。  
先ずは読んでください。ご利用をお待ちしています。